生者と死者の神としてのメソポタミアの太陽神シャマシュ
―死者が起こす災厄と身体的不調を除く儀礼から―

渡辺　和子 *

The Mesopotamian sun god Šamaš as the god of the living and the dead

WATANABE Kazuko

The Mesopotamian sun god Šamaš had various functions. He was worshipped as the god of light and of justice. He was also the god of the living and the dead as well of rituals and oracles. Šamaš stood close to the people and would respond to their worldly desires. This paper considers the roles Šamaš played in the rituals conducted by the specialist, called *āšipu;* especially in those that were performed to resolve the disorders and unfavorable conditions that the dead or their ghosts brought upon the living.

キーワード： メソポタミアの太陽神、シャマシュ、儀礼、生者と死者の神、冥界の神
Keywords ： Mesopotamia sun god, Šamaš, rituals, the god of the living and the dead, the god of the netherworld

＊東洋英和女学院大学大学院　人間科学研究科　教授（宗教学・宗教史学）
Professor (History of Religion), Department of Human Sciences, The Graduate School of Toyo Eiwa University.

はじめに

メソポタミア宗教の研究を進めるうちに筆者は、「アーシプ」と呼ばれる職能者がシャーマンに相当するという認識を深めている（渡辺 2018b）。アーシプの職能は多岐にわたるが、あらゆる災厄を払い、病気を治療する儀礼を行うことも含まれる（渡辺 2008、2018a 参照）。本論では、災厄や病気の原因が死者や死霊によるなんらかの「障り、祟り」にあるとされるもの（Scurlock 2006 参照）に着目し、なかでも太陽神シャマシュの関わりが言及されているものに焦点をあわせて検証する。

1．太陽神シャマシュに関する文書・図像資料

メソポタミアの太陽神に関する文書資料は、主として太陽神の尊称としての別称・肩書き、太陽神への祈祷文、太陽神に呼びかける願いとしての祝福・呪いの言葉などである。しかし、その他にも王碑文、法典、神話、叙事詩、占い文書、神託伺い、墓碑銘などに時折見られる太陽神への言及のほか、人名にも太陽神の名が含まれることがある。人名は神への祈りの表現であることが多いからである。そして人名は行政経済文書、法的文書などのほぼすべてに含まれているため、太陽神の文書資料の数は多くなる。

考古資料としては、太陽神に関係する宗教的建造物や造形物、太陽神像、太陽神のシンボル、宗教的場面を表したレリーフや印章図像に見られる太陽神像などがあり得る（渡辺 2003, 53, 注 20 参照）。

次に太陽神シャマシュの様々な属性について述べた拙論（渡辺 2003）の一部分に改訂を加えながら、主要な点を簡単に振り返っておきたい。

1.1. シャマシュの女神から男神への変化

セム系言語では太陽神は女性とされている。ウガリト語（西セム語）のシャプシュ（Šapš）、ヘブライ語（西セム語）のシュメシュ（Šemeš）、そしてアラビア語（南セム語）のシャムス（Šams）が太陽（女性名詞）もしくは太陽女神を意味する。ところが、最古のセム語であるアッカド語（東セム語）のシャマシュ（Šamaš）は男神であり、「太陽」を意味するシャムス（*šamšu*）も男性名詞である。

その理由は、メソポタミアではアッカド語を話す人々と、シュメール語（系統不明）を話す人々との接触・交流が早い段階からあり、シュメール語の太陽神ウトゥは男神であることに影響を受けて、シャマシュも男神となったと考えてよいであろう。文書資料によってその変化の時期を突き止めることはできないが、何よりもシュメール語で「ウトゥ」を示す文字（表意文字、スメログラム）を書いて「シャマシュ」と読むことが古くから行われていたために、自然と男神となっていったと想定できる（渡辺 2003, 27-28）。

1.2. 光の神

太陽は毎日、地上を明るく照らすことから、光の神とされる。「シャマシュは我が光である」（シャマシュ・ヌーリー）と言う人名も知られている（Stamm 1939, 308 参照）。またシャマシュに対する願いとして、ある人に光を与えることを願ったり（祝福）、あるいは光を奪うこと（目を見えなくすること）を願ったりした（呪い）。このように神に呼びかけてある人の幸福を願う「祝福」のことばの内容の裏返しが「呪い」の内容となることが多いが、どちらもアッカド語の動詞の希求形を用いる表現であり、どちらも願いを表現していることが共通している（バビロニア起源の呪いの言葉とその伝承については、Watanabe 1984；1987, 35-42；渡辺 2004, 65-72 参照）。

1.3. 正義と裁きの神

太陽神が正義と裁きと司る神とされたのは、おそらく太陽が毎日規則正しく日の出と日の入りを繰り返し、また地上のすべてを照らして見ると考えられたからであろう（Maul 1999, 201-202 参照）。「シャマシュは裁判官」（シャ

マシュ・ダヤーン）という意味の人名が知られている（Stamm 1939，225 参照）。また、前 19 世紀末にアッシリア王位を奪ったシャムシ・アダド 1 世の王碑文のなかに「シャマシュ、天と地の偉大な裁判官」という記述がある（Grayson 1987，54）

シャマシュに呼びかける祝福では正しい裁判を行うことが願われるのに対して、呪いでは正しい裁判を行わないことなどが要求される（Watanabe 1987，162-163，§40；渡辺 2017，225 参照）。すなわちシャマシュは正義を司る神であるからこそ、正義を与えることも与えないこともできるといえる。また「ハムラビ法典」においても法と正義の神であるシャマシュとの強い結び付きを示している（中田 2002；渡辺 2020（印刷中）参照）。

1.4. 生者と死者の神

太陽神は、東から昇り、昼間は地上の生者を照らして西に沈み、夜間は死者が住む地下の冥界を通って東にもどって昇ってくると考えられたために、生者の世界と死者の世界の双方を繋ぐ神ともされた（ボテロ 1998，416 参照）。ちなみにヒッタイトの太陽神についても死者と生者の両方にかかわっていたことが指摘されている（Fauth 1979 参照）。

したがってシャマシュは、しばしば冥界の神としても名を挙げられている。新アッシリア時代の王妃ヤバーの墓碑銘は「冥界の偉大な神々であるシャマシュ、エレシュキガル、アヌンナキの名において」という言葉で始まり、墓を暴く者への呪いなどが記されている（渡辺 1998，337；2007，59；2009，379 参照）。特にこの碑文では冥界の神々の筆頭にシャマシュの名が挙げられていることである。

「シャマシュは死者を生き返らせた」（シャマシュ・ミータム・ウバリト（Šamaš-mītam-uballiṭ）及びその類名）という意味をもつ人名があることからも、シャマシュが生と死を司る神とされたことが窺える（この人名のタイプではシャマシュに替わってバビロンの主神マルドゥク、「天命の書板」を書く書記神ナブー、治癒女神グラなどが置かれることもある）。なおこの人名は文字通りの「死者を生き返らせた」という意味ではなく、「瀕死の状態から快復させた」という意味にも解される（Stamm 1939，187 参照）。

1.5. 身近な神

太陽神に与えられている重要な役割として、言わば「身近な神」とがあると筆者は想定する。そのことは、特に別称などとして明言されてはいないが、おそらく太陽（神）が人間の日々の生活を照らし、また目に見える大きな、かつ身近な存在であると感じられるところから、人間の切実な、いわば現世利益的な願いを訴えかける対象とされたのであろう（注：神話や叙事詩のなかでも太陽神はしばしば切実な願いを聞き届ける存在として登場する。キシュの王エタナに関するアッカド語の伝説（Dalley 2000，189-202；後藤 1978，232-242 参照）によれば、彼は後継ぎを得たいと願ってシャマシュに「子宝の草」を所望した。シャマシュはエタナに助言を与え、傷ついたワシを助けることにより、ワシの背に乗って「子宝の草」を得るために天界へ行くことをかなえさせた。この場合もシャマシュがエタナに直接「子宝の草」を与えるのではなく、それを手に入れる方法を教え、助力するという意味では、人間と高位の神との間の仲介者として働いていることになる。また『ギルガメシュ叙事詩』（標準版第 4 書板）のなかで英雄ギルガメシュは、杉の森にいるフンババと戦うためにシャマシュの助力をもとめた（渡辺 2014，73-74 参照）。さらに、標準版第 7 書板では、自らの運命を嘆く瀕死のエンキドゥを慰めたのもシャマシュであった（渡辺 2014，79 参照）。

『イナンナの冥界下り』（シュメール語）の神話には、冥界からの追っ手を逃れたいドゥムジが、ウトゥに願って蛇に姿を変えてもらったことが記されている（Römer 1993b，485-486；五味 1978b，33-35 参照）。しかし結局ドゥムジ

は捕らえられて冥界へ送られたようである。

1.6. 讃歌・祈祷を含む儀礼の神

かつてより、シャマシュに訴えかける言葉や祈りが、ある種の儀礼文書にしばしばみられることが知られていた。シャマシュ賛歌ではシャマシュの多くの属性が讃えられている（Lambert 1960, 121-138 参照）。また特にアーシプが行う儀礼に関する文書においてもシャマシュに呼びかけるものが多数残っている（Mayer 1976, 411-423, 503-516；Butler 1998, 127ff. 参照。ヒッタイトの呪術における太陽神の役割については Fauth 1979 参照）。

メソポタミアで広く行われた「神託伺い」の文言を記した文書のなかでも、シャマシュが天候神アダドとともに呼びかけられる一群の文書は良く知られている（Starr 1990 参照）。

その他、天体占いにおける太陽神、王（権）の神としての太陽神については渡辺 2003, 33-35 参照。

2. 死者・死霊が引き起こす災厄・身体的不調を祓う儀礼

前述したように、「生者と死者の神」としてのシャマシュが、生者の災厄や病気のうち、その原因が死者・死霊にあると判断された場合の儀礼に関するいくつかの文書を取り上げる。これらの文書は原則として、儀礼を執行するアーシプに対する「指示」であり、アーシプが「あなた」とされ、儀礼の依頼者は「彼」と呼ばれている。

災厄、不調、病気などの原因が死者、死霊とされる場合、それらを被害者の体から引き離すために、死者、死霊の小像を粘土で作ってそこに移動させ、その像に対して「供養」としての儀礼を行うことで鎮め、さらに西に没する太陽の導きによって、地下の冥界へと導かれることが期待されている。他の災厄を祓う場合は、アーシプが粘土で小像を作って災厄を移動させ、その像を滅ぼすことによって災厄を祓うことが多いのに対して、死者、死霊に対しては、丁重にもてなして冥界に下ってもらうことが目指されている。

2.1. 「死者を繰り返し見る」(1) Scurlock No.14（K 2352 ＋ CT23.15-22 ＋, ii 31'-41' //*KAR* 234//K 2781）

邦訳

1 もし人が［死者（*mītu*）を繰り返し見るならば］、あなた（アーシプ）は、シグーシュ麦［を焙煎して作った粉］を撒く。（そして）［…］。あなたは水を注ぐ。あなたはシャマシュの前で次のように言う。

2 「あなたは戻ってきてはならない。この世界のどこでも周回してはならない。あなたは戻ってきてはならない。そして某の息子某の夢の中でも

3 会ってはならない。天界と冥界の神々であるアヌ、アントゥ、シャマシュ、（そして）アヌンナキによって

4 あなたは誓わされている」（とあなたは言う）。３日間あなたは陶工の（粘土の）穴を清める。４日目の夜にあなたは一つまみの粘土を取る。

5 あなたはその死霊（*eṭemmu*）の像を作る。あなたはその名前を（像の）肩に記す。あなたはその（像の）足をねじる。

6 あなたはそれを［…］の中に入れる。あなたは犬のまっすぐな歯を取ってその（像の）口に刺す。あなたはシャマシュの前に葦の祭壇をしつらえる。

7 あなたはナツメヤシとサスクー粉を撒く。あなたはラハンヌ容器を満たす。二つは水で。二つはビールで。あなたは（それらを）置く。水を灌ぐことを

8 あなたはシャマシュの前で行う。あなたはシャマシュの前で３回次のように言う。

9 「私はあなたを（西方に）沈む（大きくなる）シャマシュによって誓わせた。あなたは某の息子某の体から遠ざからなければならない。あなたは離れなければならない。

10 あなたは去らなければならない」。あなた

は（このように）言って、西の穴にその像を閉じ込める。そうするならば

11　その人は生きている間、死者（*mītu*）を見ることはない（下線、渡辺）。

注釈

被害者の訴えが「死者（*mītu*）を繰り返し見る」ことであり、身体の不調や病気ではないと考えられる。

３行：ここでは「アヌ、（その配偶女神）アントゥ」が天界の神々であり、「シャマシュとアヌンナキ」が冥界の神々にあたる。

４－５行：この件でアーシプが粘土で作成する小像は「死霊（*eṭemmu*）」のものとされている。

９－10行：アーシプによる唱えごとであり、被害者に唱えさせる言葉ではない。

2.2.「死者を繰り返し見る」⑵ Scurlock No.17（*KAR* 21, r.11-20）

邦訳

1　もし人が［死者（*mītu*）を繰り返し見るならば］、彼をいやすために［…］

2　３日間、真昼に、シャマシュの前で

3　あなたは彼の家族の死霊に対する敬意を根気強く示す。

4　炒った小麦を混ぜた水をあなたは水のささげものとして注ぐ。３日目の

5　真昼に、あなたはエンマー小麦を取る。

6　あなたはパンを半分に分ける。

7　半分のパンをその人の頭ぶ

8　あなたは置く。そしてあなたは３回次のように言う。

9　「シャマシュよ、何某の息子、何某の夢は恐ろしい。

10　（そして）その予兆は悪く、厄介で、…」

注釈

３行：災厄を引き起こしているものが死霊である場合、しかもその家族の死霊である場合は特に丁重な儀礼が必要とされると考えられる。

2.3.「苦しみを与える追い払えない死霊」Scurlock No.120（A：*KAR* 267, 31-r.24；B: *BMS* 53, 1-31）

邦訳

1　［もし死霊（*eṭemmu*）がある人を］苦しめて彼の体から追い払われ得ないならば、日の入りの時にあなたは地を掃き清める。あなたは清い水を撒く。

2　あなたは葦の（簡易）祭壇を［シャマシュの前に］用意する。イスクーク小麦で作られた二つのパンをその上に置く。

3　あなたはナツメヤシ（の実）とサスクー小麦を撒く。ブラーシュ香木を焚いた香炉をアシャーグ（とげのある）低木の炭の上に

4　［あなたは置く］。あなたは［プルスィ］ート容器を置く。あなたは二つのラハンヌ容器に、一つには水を、もう一つにはビールを満たして置く。

5　［あなたは粘土の一つかみを取って］小像を作る。［あなたは］その鼻に金の糸を［結び付ける］。

6　［…］

7　［…］あなたはその［両手を］後ろで縛る。ビーヌ・タマリスク（御柳、ぎょりゅう）と［マシュタカル］を

8　［あなたは置く］。あなたはその小像をその上に立たせる。彼は次のように言う。

9　広がる［天（？）］の［…］、冥界の光、裁判官シャマシュ。

10　強い［主、エア、エリドゥが委託された者、世界で最も賢い者。マルドゥク、強い者、

11　エ・エングッラの主。エア、シャマシュ、（そして）マルドゥクよ、私を助けてください。（そして）

12　私があなた方の同意によって栄えますように。シャマシュよ、恐れさせる死霊（*eṭemmu*）、

13　それは私の背中に何日もしがみついて

14　追い払われ得ず、私を終日追い回し続け、

夜間も私を恐れさせ続けます。

15　四六時中、私を追い回し、しまいには私の頭髪を逆立てます。

16　私のこめかみを押し、常に私の顔をぐるぐる回転させるようにします。私の口の中を乾かします、＜私の肉を麻痺させ、私の全身を乾かします＞。

17　それが私の親類縁者の死霊であれ、戦争に負けて死んだ者の死霊であれ、

18　あるいはさまよう死霊であれ、―これが彼の（代理）像です。＜シャマシュよ、あなたの前で私は彼を、彼に着せるべき服を、彼の足のための靴を探し出しました。＞

19　彼の腰のための帯、彼が飲むための水を入れた皮袋、

20　私が彼のために割り当てた麦芽、＜私は彼に旅の糧食を与えた。＞　彼は日没の地に行きますように。

21　冥界の偉大な門番、ビドゥを信頼しますように。＜冥界の偉大な門番、ビドゥが彼のための見張りを強めますように。＞

22　彼（ビドゥ）がその鍵を持つ閂をつかみますように。シャマシュよ、あなたの命令で、（そして）

23　神々のなかで最も賢いマルドゥクの命令で、彼を私の体から追い払ってください。

24　私の体から彼を離してください。私の体から彼を取り除いてください。彼をあなたの誓いのもとに置いてください。

25　彼をエアとアサルヒの誓いのもとにおいてください。＜彼を［天と地の神々の］誓いのもとにおいてください。彼を私に近寄らせないでください。彼を私の近くに来させないでください。

26　彼を私に向かわせないでください。彼を私のもとに来させないでください。彼が河を越えますように。彼が山を越えますように。

27　彼が私の体から［3600ベール遠ざかりますように］。彼が雲のごとくに天に上りますように。

28　引き抜かれた［ビーヌ・タマリスクのように］彼がその場所にもどりませんように。ビーヌ・タマリスクが［私］を浄めますように

29　マシュタカルが私を解放しますように。地が（彼）を私から受け取りますように。それ（地）が私に神のオーラを与え、私の病気（*murṣu*）を取り去りますように。

30　［エア、シャマシュ］、そしてマルドゥクよ、私を助けてください。

31　私の体から病気を取り去ってください、そして私を見る者たちがあなた方を賛美するように。

32　私の体の病気を取り除いてください。私はあなた方に向きます。私に命（*balāṭu*）を与えてください。

注釈

身体的な不調を訴える被害者に対して、アーシプはそれを死霊によるものと診断して儀礼を行っている。＜　＞内はBのテクストによる。

１－８行：アーシプ（「あなた」）への指示となっている。

５－８行：アーシプは死霊を表す小像を粘土で作成する。

９－32行：被害者による、エア、シャマシュ、マルドゥクの３柱の神々に呼びかける祈り（唱えごと）となっている。ここでは生者と死者の神であるシャマシュだけでなく、シャーマンとしてのアーシプの仕事を司る神であるエア（知恵と真水の神）とマルドゥが登場している。また祈りも特に長いことから、病状の重いことを示すとも考えられる。

20：死者が冥界に達するまでに要する「旅の糧食」も死者供養として死者に捧げられるもの（*kispu*）のうちに含まれている（Tsukimoto 1985参照）。

2.4.「耳鳴りを引き起こす死霊」Scurlock No.131（*KAR* 22；*AMT* 54/2）

邦訳

1 もし死霊がある人を苦しめて（その結果）耳鳴りがするならば、
2 あなたは吉日にあなた自身を浄める。彼（被害者）は泉の水を浴びる。
3 あなたは（その）病気の小像を陶工の穴の粘土で作る。ありあわせの服を
4 あなたは（それに）着せる。７つと７つに分けてあなたはそのために食事を用意する。
5 紡錘、敷物、
6 （そして）ピンをあなたはその（小像の）頭に結ぶ。
7 あなたはシャマシュの前に葦の祭壇をしつらえる。ナツメヤシと
8 サスクー小麦をあなたは撒く。あなたはブラーシュ・ビャクシンを焚いた香炉を置く。
9 あなたはアダグッル容器を置く。あなたはあの小像をシャマシュの前に置く。
10 あなたは次のように言う。
11 唱えごと。「父なるエンキ、[…] 父なるエンキは
12 エリドゥの息子アサルヒの唱えごとを明かす。
13 アサルヒはそれを見た。
14 それゆえに、その困難さ、それゆえに
15 天と地をつかむ者、存在するものを生み出す者、が
16 （それを）その被害者から遠くへ行かせる」。
17 あなたはこの唱えごとをその（小像の）上で３回唱える。
18 あなたはその裾を切る。旅の糧食、（それは）ひき割り麦、
19 麦芽、ビールパン、（そして）乾パンを（小像に）用意する。
20 あなたはその小像を取り、
21 それにビーヌ・タマリスクを結び付け、あなたはそれに誓わせる。[…]
22 唱えごと。「神々の主によって私はあなたを誓わせた。
23 ドゥリとダリによって、
24 ラフムとラハムによって、
25 アララとベリリによって、
26 影によって、日の光によって、儀礼的な小麦の山によって、
27 燃える（火の神）ギッラによって、
28 清いヌスクによって、
29 王冠の主、（月神）スィンによって、
30 真実の裁判官シャマシュによって、
31 私はあなたを用水路とワジによって、
32 山と川によって、あなたを誓わせた
33 […によって]、
34 明るい松明の […]、スィン、[…] によって
35 シャカン、…プルーンの木のおいしい（？）…によって、
36 地のかんぬき、エビヒによってあなたは誓わせられた。
37 神々の主によって私はあなたを誓わせた。
38 あなたは解かれますように、あなたは移されますように、あなたは遠ざかりますように。

注釈

30 終わりの唱ごとではシャマシュが「裁判官」として挙げられている。

2.5.「死霊が刺すこと」に対するシャマシュへの発話指示と動作指示　Scurlock No.179（*KAR* 56, 12-r.10）

邦訳

1 唱えごと。シャマシュ、天と地の王。シャマシュ、国々の裁判官。
2 シャマシュ、神々の中で抜きんでている。
3 シャマシュ、力強く輝く。
4 シャマシュ、あなたは（物事を）正しくする主である。
5 日、月、年の悪であるラマシュトゥ、
6 ラバツ、アッハーズ、
7 […]、すべて悪い者、
8 人の憂鬱、
9 […]
10 […]

11　死霊が刺すことに対する唱えごと。
12　（儀礼的に）行うこと。アシャーグ低木の炭にのせた香炉に入ったブラーシュ・ビャクシンを
13　あなたはシャマシュの前に撒く。あなたはミッフ・ビールを注ぐ。
14　雌の仔山羊の毛（と）雄の＜仔羊＞の毛を
15　あなたはより合わせて１本のひもにする。３つの結び目を
16　あなたは７回作る。あなたはそれらを結ぶごとに
17　あなたはこの唱えごとをシャマシュの前で３回唱える。
18　あなたはそれを彼（被害者）に結ぶ。それ（死霊）が彼を指すいずれの場所でも。
19　彼（被害者）は１か月以内に回復し、その後は死霊が彼を集中的に刺すことはない。
20　あなたは結び目と解き、また２回目に（再び）結ぶ。

注釈

死霊が「刺す」という主訴をもつ被害者のために、アーシプが唱えることと行うことが指示されている。

１－10行：唱えごとの内容であり、最初の４行ではシャマシュに呼びかけ、シャマシュを讃えている。５－８行では、様々な避けるべき悪が挙げられている。

11行：１－10行の唱えごとが、「死霊が刺すことに対する唱えごと」であることを指示している。

12－20行：行うことの指示がなされている。

14行：＜　＞内は補完された語。

16－17行：興味深いことに、ひもに結び目を作るという行為をしながら、上記の唱えごとをシャマシュの前で３回唱えるという指示がアーシプに対してなされている。儀礼は一般的に「言うこと」と「すること」の組み合わせであるが、たとえばオッペンハイムのような「西洋人」の研究者は、メソポタミア宗教におけるそのような組み合わせ自体を「西洋人」には理解不能とした（渡辺 2017，86-88 参照）。

おわりに

本論のはじめに示したように太陽神シャマシュには様々な属性、権能が付与されていた。確かにシャマシュは「生者と死者の神」でもあったため、死者または死霊が引き起こす生者の不調を解消する儀礼の中で重要な役割を与えられていた。しかしそのような儀礼においても、シャマシュは「生者と死者の神」としてだけでなく、同時に「正義と裁判の神」、「身近な神」、「祈祷、呪術、神託の神」としての役割を果たすことも期待されていたことがわかる。多岐にわたる権能を持つからこそ、人間の多くの悩み、苦しみを解決する儀礼のなかで呼び出されていたのであろう。

本論では、研究史について詳述していないが、ここで扱ったいわゆる「治癒儀礼文書」については、「科学」、「宗教」、「呪術」のどれに分類すべきかという議論も続けられている（cf. Heeßel 2004; Maul 2004）。あるいはまた、それらの３つの要素がどのように混ざりあっているかという議論もある。しかし、それらの文章は主としてアーシプとその伝統の伝達のために書かれたものであって、当該儀礼のすべてを再現可能にするものではない。

アーシプが執行する儀礼についての文章は、基本的に「言うこと」と「すること」の指示、すなわち「発話指示」と「動作指示」から成るといえる。実際の儀礼では、香の匂いや音なども含まれている。そこでなされる「発話」も「動作」も含めて、すべてが合わさって有効な儀礼が成立するのであり、それ自体は古代でも現代でも共通していると言ってよい。

参考文献

東資子 2018：『治癒と物語―南西諸島の民俗医療』

森話社。
アリエス、フィリップ 1983：『死と歴史―西欧中世から現代へ』（伊藤晃／成瀬駒男訳）みすず書房（原著：Philippe Ariès, *Essais sur l'histoire de la mort en Occident du Moyen Age à nos jours,* Paris 1975）。
アリエス、フィリップ 1990：『死を前にした人間』（成瀬駒男訳）みすず書房（原著：Philippe Ariès, *L'homme devant la mort,* Paris 1977）。
池上良正 2003：『死者の救済史―供養と憑依の宗教学』角川書店。
池上良正 2006：「死者の「祭祀」と「供養」をめぐって」東洋英和女学院大学死生学研究所編、99-120.
ウォーカー，Ch.，1995：大城光正訳『楔形文字』學藝書林（Walker, C. B. F., *Cuneiform*, London 1987）.
岸本英夫 1964：『死を見つめる心―ガンとたたかった十年間』講談社（文庫 1973 年）。
五味亨 1978a：「洪水伝説」杉勇ほか『古代オリエント集』筑摩書房、12-14.
五味亨 1978b：「イナンナの冥界下り」杉勇ほか『古代オリエント集』筑摩書房、23-36.
後藤光一郎 1978：「エタナ物語」杉勇ほか『古代オリエント集』筑摩書房、232-242.
新村出 2008：『広辞苑』第六版、岩波書店。
月本昭男 1996：『ギルガメシュ叙事詩』岩波書店。
月本昭男 2004：「死者儀礼」日本オリエント学会編 2004、509-510.
テイラー、マーク・C. 編 2008：『宗教学必須用語 22』（奥山倫明監訳）刀水書房（原著：Mark C. Taylor, *Critical Terms for Religious Studies*, Chicago 1998）。
中田一郎 2002：『ハンムラビ「法典」』２版（初版 1999）リトン.
中村元ほか編 1989：『岩波仏教辞典』岩波書店。
波平恵美子 2004：『日本人の死のかたち―伝統儀礼から靖国まで』朝日新聞社。
西村明 2006：『戦後日本と戦争死者慰霊―シズメとフルイのダイナミズム―』有志舎。
日本オリエント学会編 2004：『古代オリエント事典』岩波書店。
フレイザー、ジェイムズ 1951：『金枝篇』（永橋卓介訳）岩波書店（原著：*The Golden Bough*, 1922）。
フォーテス、マイヤー 1980：『祖先崇拝の論理』（田中真砂子訳）ぺりかん社（原著：Meyer Fortes, *Oedipus and Job in West African Religion*, 1959 ほか３論文）。
前田徹ほか 2000：『歴史学の現在・古代オリエント』山川出版社。
モラン、マイヤー 1973：『人間と死』（古田幸男訳）法政大学出版局（原著：Edgar Morin, *L'homme et la mort*, Paris. 1970）。
波平恵美子 2004：『日本人の死のかたち―伝統儀礼から靖国まで―』朝日新聞社。
ボテロ，J. 1998：『メソポタミア』（松島英子訳）法政大学出版局（Bottéro, J., *Mésopotamie,* Paris 1987）.
吉田大輔 2000：「ヒッタイト象形文字の世界」『古代アナトリアの文字の世界』中近東文化センター、28-41.
脇本平也 1997：『死の比較宗教学』（叢書　現代の宗教３）岩波書店。
渡辺和子 1992：「古代オリエントの誓約と神の印章」脇本平也／柳川啓一編『現代宗教学４　権威の構築と破壊』東京大学出版会、85-114.
渡辺和子 1993：「聖なる空間の表象―古代メソポタミアの『生命の木』」小川英雄／宮家準 編『聖なる空間』リトン、49-98.
渡辺和子 1998a：「アッシリア人とフリ人の勢力」「国際関係の時代」「大帝国の興亡」大貫良夫／前川和也／渡辺和子／屋形禎亮 1998：『世界の歴史１　人類の起原と古代オリエント』中央公論社、254-370（文庫版、中央公論新社 2009、286-416）.
渡辺和子 1998b：「アッシリアの自己同一性と異文化理解」前川和也ほか『岩波講座 世界歴史２ オリエント世界』岩波書店、271-300.
渡辺和子 2003：「メソポタミアの太陽神とその図像」松村一男／渡辺和子編『太陽神の研究』下巻、リトン、25-62.
渡辺和子 2006：「メソポタミア神話にみる死の受容と悲嘆」東洋英和女学院大学死生学研究所編『死生学年報 2006　死の受容と悲嘆』リトン、23-44.
渡辺和子 2007：「メソポタミアの「死者供養」」『死生学年報 2007　生と死の表現』リトン、47-70.
渡辺和子 2008：「古代メソポタミアの『宗教』研究をめぐって」『東洋英和 大学院紀要』４号、東洋英和女学院大学大学院、17-32.
渡辺和子 2017a：「メソポタミアにおける「祈祷呪術」と誓約―「宗教」と「呪術」と「法」」江川純一／久保田浩編『「呪術」の呪縛』下巻、リトン、83-124.
渡辺和子 2017b：『エサルハドン王位継承誓約文書』リトン。
渡辺和子 2018a：「病気治しと死霊の供養―メソポ

タミアのアーシプの儀礼を中心に」『死生学年報 2018　生と死の物語』リトン、223-240.
渡辺和子 2018b：「メソポタミアのシャーマニズム論序説―『ギルガメシュ叙事詩』を手がかりに」杉木恒彦／髙井啓介編『霊と交流する人びと』下巻、リトン、33-82.
渡辺和子 2019：「メソポタミアの「冥福」観―伝統的な呪いの言葉と『ギルガメシュ叙事詩』から」『死生学年報 2019　死生観と看取り』リトン、175-192.
渡辺和子 2020：「メソポタミアの奉納物と奉納文」『オリエント』62-2（印刷中）。

Andrae, W., 1977：*Das wiedererstandene Assur*, 2. Aufl. hrsg. von B. Hrouda, München.
Arnaud, D., 1980-1983: "Larsa. A. Philologisch," *RlA* 6, 496-500.
Bänder, D., 1995: *Die Siegesstele des Naramsîn und ihre Stellung in Kunst- und Kulturgeschichte,* Idstein.
Black, J. and Green, A., 1992: Gods, *Demons and Symbols of Ancient Mesopotamia*, London.
Boehmer, R. M., 1965: *Die Entwicklung der Glyptik während der Akkad-Zeit*, Berlin.
Boehmer, R. M., 1972-1975: "Hörnerkrone," *RlA* 4, 431-434.
Börker-Klähn, J., 1993: "Noch einmal Iflatun Pınar," M.J. Mellink, E. Porada, and T. Özgüç (eds.), *Aspects of Art and Iconography: Anatolia and Its Neighbors, Studies in Honor of Nimet Özgüç,* Ankara, 339-355.
Butler, S. A. L., 1998: *Mesopotamian Conceptions of Dreams and Dream Rituals*, AOAT 258.
Ciraolo, Leda and Seidel, Jonathan (eds.), *Magic and Divination in the Ancient World*, Ancient Magic and Divination 2, Leiden, Collon, D., 1975: *The Seal Impressions from Tell Atchana/Alalakh,* AOAT 27.
Collon, D., 1987: *First Impressions*, London（久我行子訳『円筒印章』東京美術　1996）.
Collon, D., 2001: *Catalogue of the Western Asiatic Seals in the British Museum. Cylinder Seals V. Neo-Assyrian and Neo-Babylonian Periods*, London.
Dalley, St., 1986: "The God　almu and the Winged Disk," *Iraq* 48, 85-101.
Dalley, St., 2000: "Etana," in *eadem, Myths from Mesopotamia,* Oxford, (orig. 1989) 189-202.
Eder, Ch., 1995: *Die ägyptischen Motive in der Glyptik des östlichen Mittelmeerraums zu Anfang des 2 Jts. v.Chr.*, OLA 71.
Edzard, D. O., 1983: "Mesopotamien. Die Mythologie der Sumerer und Akkader," in H.W. Haussig (ed.), *Götter und Mythen im Vorderen Orient*, 2. Aufl., Stuttgart, 17-139.
Fauth, W., 1979: "Sonnengottheit (^{D}UTU) und 'königliche Sonne' (^{D}UTU-*ŠI*)," *UF* 11, 227-263.
Finkel, I. L., 1983-84: "Necromancy in Ancient Mesopotamia," *AfO* 29-30, 1-17.
Finkel, I. L., and Reade, J.E., 1996: "Assyrian Hieroglyphs," *ZA* 86, 244-268.
Finkel, I. L., 2000: "On Late Babylonian Medical Training," George and Finkel (eds.) 2000, 137-223.
Frankfort, H., 1996: *The Art and Architecture of the Ancient Orient*, 5th edition (first edition 1954) revised by M. Roaf and D. Matthews, New Haven and London.
Frayne, D. R., 1990: *Old Babylnian Period (2003-1595 BC)*, RIME 4.
George, A. and Finkel, I. L. (eds.) 2000: Wisdom, *Gods and Literature: Studies in Assyriology in Honour of W. G. Lambert*, Winona Lake.
George, A. 2003: *The Babylonian Gilgamesh Epic*, I-II, Oxford.
Grayson, A.K., 1991: *Assyrian Rulers of the Early First Millenium BC I (1114-859 BC),* RIMA 2.
Grayson, A.K., 1996: *Assyrian Rulers of the Early First Millenium BC II (858-745 BC),* RIMA 3.
Gubel, E., 1993: "The Iconography of Inscribed Phoenician Glyptic," B. Sass and Ch. Uehlinger (eds.), *Studies in the Iconography of Northwest Semitic Inscribed Seals*, OBO 125, 101-129.
Güterbock, H. G., 1940-1942: *Siegel aus Boğazköy* I (*AfO* Beih.5), II (*AfO* Beih.7), Neudruck: Osnabr ck 1967.
Güterbock, H.G., 1993: "Sungod or King?" in M.J. Mellink, E. Porada, and T. Özgüç (eds.), *Aspects of Art and Iconography: Anatolia and Its Neighbors, Studies in Honor of Nimet Özgüç*, Ankara, 225-226.
Harris, R., 1975: *Ancient Sippar*, Leiden.
Heesel, N. P. 2004: "Diagnosis, Divination and Disease: Towards an Understanding of the

Rationale behind the Babylonian *Diagnostic Handbook*," Horstmanshoff and Stol (eds.) 2004, 97-116.

Herbordt, S., 1999: "Neuassyrische Kunstperiode. IV. Glyptik," *RlA* 9/3-4, 265-272.

Hrouda, B., 1965: *Die Kulturgeschichte des assyrischen Flachbildes*, Bonn.

Horstmanshoff, H. F. J. and Stol, M. (eds.) 2004: *Magic and Rationality in Ancient Near Eastern and Graeco-Roman Medicine*, Leiden.

Katz, Dina 2003: *The Image of the Nether World in the Sumerian Sources*, Bethesda.

Keel, O., 1998: *Goddesses and Trees, New Moon and Yahweh*, Sheffield.

King, L.W., 1912: *Babylonian Boundary-Stones*, London.

Klimkeit, Hans-Joachim (ed.) 1994: *Tod und Jenseits im Glauben der Völker*, Wiesbaden.

Koch-Westenholz, U., 1995: *Mesopotamian Astrology*, Copenhagen.

Labat, R., 1995: *Manuel d' pigraphie akkadienne*, 6e dition, nouveau tirage, Paris.

Lambert, W.G., 1960: *Babylonian Wisdom Literature*, Oxford.

Leick, G., 1998: *A Dictionary of Ancient Near Eastern Mythology*, Paperback, London.

Limet, H., 1968: *L'anthroponymie sum rienne dans les documents de la 3e dynastie d'Ur*, Paris.

Magen, U., 1986: *Assyrische Königsdarstellungen*, BaF 9.

Matthews, D.M., 1992: *The Kassite Glyptic of Nippur*, OBO 116.

Matthews, D.M., 1990: *Principles of Composition in Near Eastern Glyptic of the Later Second Millennium B.C.*, Göttingen.

Maul, Stefan 1994: *Zukunftsbewältigung. Eine Untersuchung altorientalischen Denkens anhand der babylonisch-assyrischen Löserituale (Namburbi)*, BaF 18, Mainz am Rhein.

Maul, Stefan 1999: "Der assyrische König - Hüter der Weltordnung," K. Watanabe (ed.), *Priests and Officials in the Ancient Near East*, Heidelberg, 201-214.

Maul, Stefan 2004: "Die 'Lösung vom Bann': Überlegung zu altorientalischen Konzeptionen von Krankheit und Heilkunst," Horstmanshoff und Stol (eds.) 2004, 79-95.

Mayer, W., 1976: *Untersuchungen zur Formensprache der babylonischen 'Gebetsbeschwörungen'*, StPohl S.M. 5.

Mayer-Opificius, R., 1984: "Die geflügelte Sonne: Himmels- und Regendarstellungen im Alten Vorderasien," *UF* 16, 189-236.

Meyer, Marvin and Mirecki, Paul (eds.) 1995: *Ancient Magic and Ritual Power*, Leiden.

Miglus, P. A., 1994: "《Der Stein des Grafen von Aberdeen》: Interpretation eines assyrischen Flachbildes," P. Calmeyer *et al.* (eds.), *Festschrift B. Hrouda*, Wiesbaden, 181-191, Tf.XVIII.

Miglus, P. A., 2000: "Das Thronpodest des Salmanassar III. aus Kalhu und die damalige babylonische Politik der Assyrer," R. Dittmann *et al.* (eds.), *Gedenkschrift P. Calmeyer*, AOAT 272, 447-467.

Ornan, T., 1993: "The Mesopotamian Influence on West Semitic Inscribed Seals: A Preference for the depictions of Mortals," in B. Sass and Ch. Uehlinger (eds.), *Studies in the Iconography of Northwest Semitic Inscribed Seals*, OBO 125, 52-73.

Orthmann, W., 1975: *Der Alte Orient*, Berlin.

Otten, H., 1995: *Die hethitischen Königssiegel der frühen Großreichszeit*, Stuttgart.

Parayre, D., 1993: "À propos des sceaux ouest-sémitiques: le rôle de l'iconographie dans l'attribution d'un sceau à une aire culturelle et à un atelier," B. Sass and Ch. Uehlinger (eds.), *Studies in the Iconography of Northwest Semitic Inscribed Seals*, OBO 125, 27-51.

Parpola, S., 1993a: *Letters from Assyrian and Babylonian Scholars*, SAA 10.

Parpola, S., 1993b: "The Assyrian Tree of Life: Tracing the Origin of Jewish Monotheism and Greek Philosophy," *JNES* 52, 161-208.

Parpola, S., 1995: "The Assyrian Cabinet," in M. Dietrich und O. Loretz (eds.), *Fs. W. von Soden*, AOAT 240, 379-401.

Parpola, S., 1997: *Assyrian Prophecies*, SAA 9.

Pedersen, Olof 1986: *Archives and Libraries in the City of Assur: A Survey of the Material from the German Excavations*, Part II, Uppsala.

Pongratz-Leisten, B., Deller, K. und Bleibtreu, E., 1992: "Götterstreitwagen und Götterstandarten,"

BaM 23, 291-356, Tf.50-69.

Porada, E., 1948: *Corpus of Near Eastern Seals in North American Collections I, The Pierpont Morgan Library Collection*, Washington.

Reade, J.E., 1983: *Assyrian Sculpture*, London.

Reade, J.E., 1995: "The Khorsabad Glazed Bricks and Their Symbolism," A. Caubet (ed.), *Khorsabad, le palais de Sargon II, roi d'Assyrie*, Paris, 225-251.

Richter, Th., 1999: *Untersuchungen zu den lokalen Panthea Süd- und Mittelbabyloniens in altbabylonischer Zeit*, AOAT 257.

Roaf, M. and Zgoll, A., 2001: "Assyrian Astroglyphs: Lord Aberdeen's Black Stone and the Prisms of Esarhaddon," *ZA* 91, 264-295.

Römer, W. H. Ph., 1993a: "Die Flutgeschichte," in O. Kaiser (ed.), *TUAT* III/3, 448-458.

Römer, W. H. Ph., 1993b: "Inannas Gang zur Unterwelt," in O. Kaiser (ed.), *TUAT* III/3, 485-486.

Russell, J. M., 1999: "Neuassyrische Kunstperiode. III. Reliefs," *RlA* 9/3-4, 244-265.

Salje, B., 1990: *Der 'Common Style' der Mitanni-Glyptik und die Glyptik der Levante und Zyperns in der späten Bronzezeit*, BaF 11.

Sasson, Jack M. (ed.) 1995: *Civilizations of the Ancient Near East*, I-IV, Michigan.

Schutzinger, Heinrich 1994: "Tod und ewiges Leben im Glauben des Alten Zweistromlandes," Klimkeit (ed.) 1994, 48-61.

Scurlock, JoAnn 1995a: "Death and the Afterlife in Ancient Mesopotamian Thought," Sasson (ed.), 1883-1893.

Scurlock, JoAnn 1995b: "Magical Uses of Ancient Mesopotamian Festivals of the Dead," Meyer and Mirecki (eds.), 93-107.

Scurlock, JoAnn 1999: "Physician, Conjurer, Magician: A Tale of Two Healing Professionals," Abusch and von der Toorn (eds.) 1999, 69-79.

Scurlock, JoAnn 2002: "Soul Emplacements in Ancient Mesopotamian Funerary Rituals," Ciraolo and Seidel (eds.), 1-6.

Scurlock, JoAnn/Andersen, Burton R. 2005: *Diagnoses in Assyrian and Babylonian Medicine*, Chicago.

Scurlock, JoAnn 2006: *Magico-Medical Means of Treating Ghost-induced Illnesses*, Leiden.

Seux, M.-J., 1967: *Épithétes royales akkadiennes et sumériennes*, Paris.

Seidl, U., 1989: *Die babylonischen Kudurru-Reliefs. Symbole mesopotamischer Gottheiten*, OBO 87.

Seidl, U., 1999: "Neuassyrische Kunstperiode. V. Kleinkunst," *RlA* 9/3-4, 272-274.

Seidl, U., 2001: "Das Ringen um das richtige Bild des Šamaš," *ZA* 91, 120-132.

Van Soldt, W. H., 1995: *Solar Omens of enuma anu enlil: Tablets 23(24) - 29(30)*, Leiden.

Spycket, A., 2000: "La baguette et l'anneau. Un symbole d'Iran et de M sopotamie," R. Dittmann *et al.* (eds.), *Gedenkschrift P. Calmeyer*, AOAT 272, 651-666.

Stamm, J. J., 1939: *Die akkadische Namengebung*, Leipzig.

Starr, I., 1990: *Queries to the Sungod: Divination and Politics in Sargonid Assyria*, SAA 4.

Steible, H., 1982: *Die altsumerischen Bau- und Weihinschriften* I, Wiesbaden.

Stein, D., 1993: *The Seal Impressions*, G. Wilhelm (ed.), Das Archiv des Šilwa-Teššup, Heft 8 (texts), Heft 9 (catalogue), Wiesbaden.

Steinkeller, P., 1999: "On Rulers, Priests and Sacred Marriage," in K. Watanabe (ed.), *Priests and Officials in the Ancient Near East*, Heidelberg, 103-137.

Stiehler-Alegria Delgado, G., 1996: *Die Kassitische Glyptik*, München.

Stol, M. 1993: *Epilepsy in Babylonia*, Groningen.

Strommenger, Eva 1971: "Grabbeigabe I. Iraq und Iran," *RlA* 3, 605-608.

Tallqvist, K., 1938: *Akkadische Götterepitheta*, Helsinki.

Teissier, B., 1984: *Ancient Near Eastern Cylinder Seals from the Marcopoli Collection*, Berkeley.

Teissier, B., 1994: *Sealing and Seals on Texts from Kültepe Kārum Level 2*, Leiden.

Timm, St., 1993: "Das ikonographische Repertoire der moabitischen Siegel und seine Entwicklung: vom Maximalismus zum Minimalismus," B. Sass and Ch. Uehlinger (eds.), *Studies in the Iconography of Northwest Semitic Inscribed Seals*, OBO 125, 161-193.

Tsukimoto, Akio 1985: *Untersuchungen zur Totenpflege (kispum) im alten Mesopotamien*, AOAT 216, Neukirchen-Vluyn.

Di Vito, R. A., 1993: *Studies in Third Millennium Sumerian and Akkadian Personal Names*, StPohl S.M. 16.

Watanabe, K., 1984: "Die literarische Überlieferung eines babylonisch-assyrischen Fluchthemas mit Anrufung des Mondgottes Sîn," *ASJ* 6, 99-119.

Watanabe, K., 1987: *Die adê-Vereidigung anläßlich der Thronfolgeregelung Asarhaddons, BaM* Beiheft 3, Berlin.

Watanabe, K., 1999: "Seals of Neo-Assyrian Officials," in K. Watanabe (ed.), *Priests and Officials in the Ancient Near East*, Heidelberg, 313-366.

Werner, R., 1991: *Kleine Einführung ins Hieroglyphen-Luwische*, OBO 106.

Winter, I.J., 1982: "Art as Evidence for Interaction: Relations between the Assyrian Empire and North Syria," H. Kühne, H.-J. Nissen und J. Renger (eds.), *Mesopotamien und seine Nachbarn*, Berlin, 355-382.

略号

AfO *Archiv für Orientforschung*
AHw W. von Soden, *Akkadisches Handwörterbhuch* I-III, 1965-1981.
AMT R. Cambell Thompson, *Assyrian Medical Texts*, London 1923.
AOAT Alter Orient und Altes Testament
ASJ Acta Sumerologica
BaF Baghdader Forschungen
BAM Franz Köcher, *Die babylonisch-assyrische Medizin in Texten und Untersuchungen*, I-VI, Berlin 1964-1980.
BaM *Baghdader Mitteilungen*
BID W. Farber, *Beschwörungsrituale an Ištar und Dumuzi*, Wiesbaden 1977.
BM British Museum
BMS L.W.King, *Babylonian Magic and Sorcery*, London 1896 (Nachdruck: Hildesheim 1975)
CAD The Assyrian Dictionary of the Oriental Institute of the University of Chicago
CT Cuneiform Texts
IrAnt *Iranica Antiqua*
JNES *Journal of Near Eastern Studies*
LKA Erich Ebeling und Franz Köcher, *Literarische Keilschrifttexte aus Assur*, Berlin 1953.
KAR Erich Ebeling, *Keilschrifttexte aus Assur religiösen Inhalts*, Berlin 1919.
NABU *Nouvelles Assyriologiques Brèves et Utilitaires*
OBO Orbis Biblicus et Orientalis
OLA Orientalia Lovaniensia Analecta
*Or*NS *Orientalia* Nova Series
RA *Revue d'Assyriologie*
RIMA The Royal Inscriptions of Mesopotamia, Assyrian Periods
RIME The Royal Inscriptions of Mesopotamia, Early Periods
RlA Reallexikon der Assyriologie.
SAA State Archives of Assyria
SpTU Spätbabylonische Texte aus Uruk
StPohl, S.M. Studia Pohl, Series Maior
STT I Oliver R. Gurney and Jacob J. Finkelstein, *The Sultantepe Tablets* I, London 1957.
STT II Oliver R. Gurney and Peter Hulin, *The Sultantepe Tablets* II, London 1964.
TDP René Labat, *Traité akkadien de diagnostics et pronostics médicaux* I-II, Paris 1951.
TUAT *Texte aus der Umwelt des Alten Testaments*
UF *Ugarit Forschungen*
ZA *Zeitschrift für Assyriologie*